

平成28年度 第2回 屋久島世界遺産地域科学委員会 議事要旨

《議事1 平成28年度第一回科学委員会の議事要旨について》

- ・委員からの意見は特になし。訂正等あれば事務局に連絡。反映

《議事2 平成28年度モニタリング調査について》

(1) 登山者数について

- ・モッコヨムは尾之間、愛子に比べて登山者数が多い傾向。しかし欠測期間がある。
- ・今後、登山者数がピークを過ぎた後、どのようにするのかを検討する重要な時期である。
- ・国立公園の計画では石塚、花折岳は登山ルートとして認めていないという記載が必要。

(2) 避難小屋宿泊者数について

- ・避難小屋の宿泊者数を把握する為、6箇所すべての避難小屋に調査ノートを設置。
- ・3月下旬、GW、SW、5月下旬のシャクナゲ開花時期に利用者が集中。
- ・小屋の収容人数を超えるほどの混雑は、年間でも数日しかなかった。

(3) 携帯トイレについて

- ・携帯トイレを使わなかった理由として多かったのは「小屋の設備で足りた」との回答。
- ・山中泊の登山者の携帯トイレ携行率が低い。現在項目ごとに集計中。

(4) 森林生態系モニタリング調査について○下層植生の衰退

- ・試行的にシカ柵を設置して、シカ柵の内外で土砂流出の影響を調査する。

○高層湿原について

- ・大きな土砂が入ってくると小さな土砂流入が阻害される。その妨げを防ぐ改善が必要。
- ・シカによって軽石層が破壊され、急激に水位が下がったので、この問題が緊急的。
- ・小花之江河では、10年程前から夏場はメタン臭がする。衰退の一因になっているのでは。
- ・湿原の水収支については、複数の方にヒアリング、集水域全体のモニタリングが必要。

○植生モニタリングについて

- ・ベースモデルのシミュレーションで、ヤブニッケイの更新は可能であると判断できる。
- ・長期的な影響への判断が必要。林床、低木については、対策を急ぐ必要がある。

《議事3 ヤクシカWG合同会議での取組状況について》

- ・20 頭/k m²とほぼ相当する、9000 頭にまで減らすという目標設定。今年度捕獲は 2384 頭。
- ・ヤクシカ捕獲数が低標高地で減少。糞粒・糞塊両法のデータでは北部、西部、南部では生息密度が増加、東部で生息密度が低下。高標高地はまだ正確な推定はできていない。
- ・シャープシューティングについては、林道での実施場所、合意形成の努力、アクセス等の問題、実施できないところでの駆除の方法を検討した。
- ・西部での調査捕獲を実施して、島全体の遺伝的多様性を把握し、ヤクシカが多様性にも配慮した対策を検討すべき。西部は研究者、観光業との合意形成が重要。
- ・出口利用（肉の加工を含めた有効利用）等、経済的な効率性などを考慮する必要。

《議事4 山岳部における利用と保護の検討状況について》

○登山道荒廃状況等の調査結果概要について

- ・荒廃調査にレクリエーション研究者も共同で入れば、中長期的な提案ができるのでは。
- ・下川委員の登山道対策をベースに。ROS に基づく、体験の質と登山道荒廃との組み合わせが重要。

○高層湿原（小花之江河）の植生保護柵設置の試行について

- ・植生保護柵は大雨の際に枯れ枝が貯まる。下方の開放、網目の拡大等、対策が必要。
- ・木道下の植生はシカが食べ残す場所がある。板間隔を開ければ保全効果が期待できる。

○縄文杉周辺の再整備について

- ・木道の痛みは侵食、踏圧の影響もある。階段等、こまめに滑り止めの板を打っている。
- ・大王杉はいつ折れてもおかしくない状況。歩道は大王杉の上側を通す方針で対策が必要。

《議事5 屋久島世界自然遺産・国立公園山岳部利用のあり方検討会について》

- ・エリア、ルート毎のゾーニングや管理方針、利用方針、施設維持管理、サービスを検討。
- ・初回は参加者で認識の共有を図った。次回はデータ、課題を整理し、論点の素案を検討。

《議事6 その他・外来種（アブラギリ）駆除の実施について》

- ・大きくなるにつれ貯蔵物質等が冬の間貯まるため、盛夏時期は効果的に駆除ができる。解放地では地際近くで伐採する。萌芽した際は、芽かきや伐採高を引き下げて伐採を行う。
- ・西部のカンカケ、大川林道の上の方から林道全体に分布しているものの処理をしたい。

○その他・屋久島町から・モノレール案件について

- ・白谷林道周辺のし尿搬出用のモノレール事業は工事着工を見送り、別の運搬方法を検討。
- ・体調不良や準備計画を行わない登山利用客に対して、救急活動は継続的に発生している。

○その他・事務局から「科学委員会の役割の明確化」について

- ・科学委員会の役割の明確化について、土屋委員、矢原座長、関係機関で整理し報告する。